

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | 現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | |
|--|--|---|-------------------------|----------------------|------------------------------------|--|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 |
| (1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか | | | | | | |
| a | ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】 | 本センターは、「『個』を強くする大学」として実学を重視する本学の教育理念に基づき、学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、及び主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、もって社会に有用な人材を輩出することを目的としている。 センターの目的である「主体的に進路選択ができる能力の育成を図る」と本学の教育理念である「『個』を強くする」ことは、「主体的」と「個を強くする」ことにおいて結びついているので、センターの目的は適切に設定されている。 | | | | |
| (2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか | | | | | | |
| a | ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】 | 本センターの活動については、教務部委員会にて随時報告している。また、センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 本センター目的等は、大学のホームページを始めとし、大学案内などの刊行物によって周知している。 | | | | |
| (3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか | | | | | | |
| a | ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】 | 就職キャリア支援センター運営委員会において毎年、自己点検・評価を実施しており、検証を行っている。また、センター活動報告を毎年発行し、活動内容を学内に公表することにより、理念・目標の検証を行っている。 | | | | |

2015年度就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

| 点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small> | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|--|---|---|--------------------------------------|--|---|--------------------------------------|
| | <small>0列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small> | <small>効果が上がっている点 F列の現状から記述</small> | <small>改善を要する点 F列の現状から記述</small> | <small>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</small> | <small>「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述</small> | <small>(中長期的対応) H列にあれば記述</small> |
| (1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか | | | | | | |
| a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】 | 学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、社会に有用な人材を輩出することを目的として、学長の下に設置している。 現状としては、センター、委員会等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 本センターの運営に関して審議するため、運営委員会を設置している。運営委員会は、センター長1名、副センター長1名、センター推進員8名、各学部教授会から推薦された専任教員10名、大学院委員会から推薦された専任教員2名、法科大学院及び専門職大学院から2名、教務事務部長および就職キャリア支援部長の26名で構成されている。なお、各学部教授会から推薦された専任教員として、理工学部就職指導委員会、農学部就職担当委員会の各委員長が含まれている。 センターの管掌部署は、就職キャリア支援部であり、文系学部には就職キャリア支援事務室、理系学部には生田就職キャリア支援事務室が設置されている。2013年度から、文理融合型キャンパスである中野地区に中野教育研究支援事務室（就職キャリア支援担当）も設置されている。就職支援とキャリア支援を体系的かつ一貫して行う環境が整備されている。 また、1年に4回程度開催される「センター運営委員会」では、学内の就職関連について議論、検討することはもとより、各種支援行事などを委員に周知することで、学部教授会を通じて学生に現在の就職状況等を伝えることが出来ている。また、1年に4回程度開催される「センター運営委員会」では、学内の就職関連について議論、検討することはもとより、各種支援行事などを委員に周知することで、学部教授会を通じて学生に現在の就職状況等を伝えることが出来ている。 | | | | | |
| (2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか | | | | | | |
| a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】 | 就職キャリア支援センター規程において、センター推進員及びセンター運営委員の任期は2年（再任あり）となっている。各学部教授会に委員の推薦依頼をするなど、適切な手続きを経て委員が構成される仕組みとなっている。 | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|---|---|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-------------------|--|
| | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | |
| (1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか | | | | | | |
| a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】 | 本センターは、「『個』を強くする大学」として実学を重視する本学の教育理念に基づき、学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、及び主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、もって社会に有用な人材を輩出することを目的としている。 センターの目的である「主体的に進路選択ができる能力の育成を図る」と本学の教育理念である「『個』を強くする」ことは、「主体的」と「個を強くする」ことにおいて結びついているので、センターの目的は適切に設定されている。 | | | | | |
| (2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか | | | | | | |
| 教員の編制方針に沿った教員組織の整備 | | | | | | |
| a ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】 | 本センターの活動については、教務部委員会にて随時報告している。また、センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 | | | | | |
| (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか | | | | | | |
| 教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性 | | | | | | |
| b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 （※）社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価します。 【600～800字】 | 就職キャリア支援事務部では、現状認識や社会的視野の拡大を図っている。毎年秋に「企業と大学との就職懇談会」を開催し、学長、学部長をはじめとした学部執行部など110名以上の教員が、各企業人事担当者に対して学部・研究科における教育内容や教育の現況を説明している。企業側からの意見聴取や学生の採用状況を伺うことにより、懇談を通じて本学就職概況を把握するとともに、企業や社会とのつながりを見直す機会としている。 | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | |
|--|---|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-------------------------|
| | G列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | |
| | | | | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 |
| (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか | | | | | |
| a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】 | 本センターは、「『個』を強くする大学」として実学を重視する本学の教育理念に基づき、学生の就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、及び主体的に進路を選択できる能力の育成を図り、もって社会に有用な人材を輩出することを目的としている。 センターの目的である「主体的に進路選択ができる能力の育成を図る」と本学の教育理念である「『個』を強くする」ことは、「主体的」と「個を強くする」ことにおいて結びついているので、センターの目的は適切に設定されている。 | | | | |
| b ●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標（人材像）の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約800字】 | ＜卒業生の進路状況の把握＞ 過去3カ年（2013年度～2015年度）の「卒業生に対する就職率」の推移は、概ね70～80%程度であり、10%程度の学生が大学院に進学し、15%程度の学生がその他（自営、就業継続、資格試験準備、帰国した者、一時的な職に就く者、進路未提出者等）となっている。 2015年度の学部卒業生数に対する就職者数と就職率は79.5%（2014年度77.2%）であった。 労働市場における社会環境には改善が見られ、学部卒業生の就職率は上昇した。最近3カ年の各学部別の卒業生・修了生に対する進路状況（就職、進学等）は、別表のとおりである。各学部では進路状況を把握することにより、人材養成の目的に沿った卒業生を育成できているか検証する一つ的手段として、データ提供等を行っている。 また、就職キャリアシステムで学生各人が在学中の経験等を入力しその内容を進路相談に活かしており、進路報告も当該システムにて行い、学習成果の「見える化」を実現している。 | | | | |
| (2) 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか | | | | | |
| a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】 | 本センターの活動については、教務部委員会にて随時報告している。また、センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|---|--|-------------------------|----------------------|------------------------------------|----------------------|--|
| | C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | | |
| | | | | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| (1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか | | | | | | |
| a ●修学支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】 | 「進路支援の方針」については、就職キャリア支援センター規程において「学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、主体的に進路を選択できる能力の育成を図る」ことを明示し、この方針をもとに課題を検証し、次年度の具体的な計画も示している。さらに「2015年度就職キャリア支援センター報告書」において、就職キャリア支援の概念図を示し、「入口から出口まで」の一貫した支援体制を分かりやすく公表している。 | | | | | |
| b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】 | <学生の生活実態の把握と学生支援活動の適切性の検証> 就職キャリア支援センターでは、進路報告については、内定時に「就職活動報告書」の提出及びWEBサイトでの「進路入力」の実施、卒業時の進路状況報告書の提出によって進路実態を把握している。また、支援行事の運営について、行事に参加した学生にアンケートを行うことや就職活動報告書のアンケート欄の分析により、学生のニーズを常時反映させ、タイムリーな運営を行っている。例えば、2014年度には、学内筆記模擬テスト受験時に実施した学生へのアンケート結果を活用し、SNS利用状況等を確認した結果、Facebookページの開設・運営へつなげることができた。また、現況の分析、検証を行いその結果から、留年者への個別情報配信・障がい学生への状況別対応・留学生に特化した行事の実施などを実現させ、PDCAサイクルを機能させている。なお、障がいのある学生、留学生に対しては、担当者を設け対応している。 | | | | | |
| (2) 学生への修学支援は適切に行われているか | | | | | | |
| a ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援（補習・補充教育に関する支援など）の適切性の確認 【約400字～800字程度】 | 本センターの活動については、教務部委員会にて随時報告している。また、センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 本センター目的等は、大学のホームページを始めとし、大学案内などの刊行物によって周知している。 | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|---|--|-------------------------|----------------------|--|----------------------|--|
| | C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | |
| | | | | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 | |
| (4) 学生の進路支援は適切に行われているか | | | | | | |
| a ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】 <就職支援・指導> | <キャリア形成支援及び就職指導の体制と重点課題> 学生の職業観及び職業に関する知識・技能を涵養し、主体的に進路を選択できる能力の育成を図るため「就職キャリア支援センター」を設置し、事務部門として就職キャリア支援部19名及び中野教育研究支援事務室（就職担当）3名が、就職支援とキャリア形成支援を体系的かつ一貫して行う環境を整備している。特に「就職・進路相談」は、学生の多様なキャリアニーズに対する専門的知識を有した担当が必要である。2015年度は就職キャリア支援部で12名（2014年度12名）の担当が公的認定資格であるキャリアカウンセラーを取得している。 本センターの活動方針として、キャリア教育の定義を明確化するためにキャリア支援について正課・正課外科目と各種行事等のそれぞれの支援プログラムが有機的に行われるよう計画を立てること、共感力・自己表現力の養成により進路選択後のミスマッチを軽減し、納得のいく進路選択の実現を支援すること、就職以外の進路選択について適切な指導や情報提供を行うために学内での連携強化を図ることを掲げている。これら方針を達成するために、次の7点を重点課題ととしている。①学部間共通総合講座「キャリア・デザイン関連講座」の充実、②就職キャリア支援プログラムの充実（特に低学年向け）、③全学版インターンシップ制度の充実、④就職支援等の充実（相談力強化）、⑤グローバル化に対応する就職キャリア支援の強化、⑥大学院生・専門職大学院生に対する就職キャリア支援の強化、⑦センターの広報活動である。 これらの活動を推進していくために、2015年度は重点強化支援として次の計画を実施した。①明治大学就職手帳の作成、②エントリーシート対策講座および添削、③外国人留学生・大学院生に特化した就職支援サービスの向上、④外部機関との業務提携による全学版インターンシップ制度の充実、⑤求人システムの改修、⑥就職システムの保守・管理料、⑦求人システムにおける保守・管理料、⑧中野キャンパスにおける就職キャリア支援行事の充実、⑨自己分析、社会人基礎力養成、就職力育成のためのコンピテンシー診断の実施である。以上のように、センターは方針と計画を明確にして支援活動を行っている。 これら支援活動の結果、2015年度の学部卒業生6,576名のうち、就職が5,225名（79.5%）、進学が602名（9.2%）、留学生の帰国や自営、社会人等を含むその他が約749名（11.4%）となっている。 | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|--|--|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-------------------------|----------------------|
| | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | |
| | | | | | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| | <p><就職支援・指導></p> <p>就職支援・指導については、学生の授業に配慮しつつ「学生が納得した進路選択ができる」ために、「フェイス・トゥ・フェイス」を基本方針とした相談態勢を採り、就職活動で直面している問題や進路選択全般について、年間約30,691件の面談に応じている。理系学部では学校推薦制度があり、理工学部では就職指導委員会、農学部では就職担当委員会を設置している。また、中野教育研究支援事務室（就職キャリア支援）でも2015年度に4,544件の就職相談があった。センターには「資料室」を設け各種資料を閲覧に供している。過去8カ年にわたる卒業生が採用選考の内容を詳細に記録した「就職活動報告書」は本学独自の資料であり、「就職活動報告書アンケート」から最も多くの学生が利用した資料として高い評価を得ている。</p> <p>2015年度の就職キャリア支援行事は、カレンダーに沿って実施した。3年生は6月にプレ就職・進路ガイダンスからはじまり、就職・進路ガイダンスは10月初めから合計20回開催した。企業における採用活動は経団連の倫理憲章に基づき3月以降となり、本学も3月1日以降に学内セミナー等を実施し、スケジュールの大幅変更のあった4年生には、8月の採用選考本格化に対応し、お盆休み期間に相当する大学の一斉休業期間中も就職キャリア支援センターを臨時で開室するなど、支援強化に努めた。選考のピークを越えた秋以降は就職活動を継続する学生に対して、学内セミナー、学内企業選考会等の他、求人情報紹介セミナー、社長スカウト会を実施するなど、就職支援を卒業後も継続的に支援した。</p> | | | | | |
| | <p>2015年度の取り組みとして、10月初旬に開催した就職・進路ガイダンスにおいて、2012年度から新たに学生のニーズを踏まえた本学独自の「明治大学就職活動手帳」を改良して作成・配布した。企業研究記録欄や自己分析等のシートをWEBサイトと連動させる等、実用的かつ大学の資源を有効活用できる資料となっている。「明治大学就職活動手帳」を活用した就職・進路ガイダンスは好評であり、その結果、ガイダンスの出席者は6,990名と、前年とほぼ同じ高い水準を維持した。また、就職・進路ガイダンスにおいては職業安定法第33条の2に基づいた学生の求職登録を行っており、2015年度の登録率は学部生92.1%、大学院生62.1%となっている。</p> <p>中野教育研究支援事務室（就職キャリア支援）においては、10月初旬に開催した就職・進路ガイダンスでは、2015年度に第一期生が3年生となる総合数理学部に対しても別途開催し、出席者は407名（98%）となった。その他、国際日本学部等に向けた文系支援、総合数理学部等に向けた理系支援、また、イングリッシュ・トラック等の外国人留学生に対する支援等、計約200回の各種支援行事を実施した。</p> <p>就職・進路支援業務のさらなる向上を図るための「検証システム」として就職活動を終えた4年生に「就職活動報告アンケート」を実施し、文系（駿河台・中野）と理系（生田）に分かれ、その結果を分析し、効果的な点、改善すべき点について検証している。検証主体は、就職キャリア支援部であり、毎年度の職場研修会において、上記アンケート内容の分析をはじめ、問題点の抽出と改善方策の検討を行っている。2015年度の検証においては、インターンシップの課題抽出や求人検索システムの改善点や、2012年度に導入した本学独自の「明治大学就職手帳」の利活用の状況、改善点等について明らかにし、学生の声を参考にしながら、次年度の活動の改善に活かしている。</p> | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|--|---|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-------------------------|----------------------|
| | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | |
| | | | | | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| ＜キャリア形成支援＞ | <p>＜キャリア形成支援＞</p> <p>キャリア形成支援は、キャリア形成関係の授業科目とインターンシップを中心に、学生が自ら進路選択できる能力を得られるよう初年次から段階的に指導している。</p> <p>キャリア形成支援科目については、各業界の第一線で活躍している社会人を講師として招聘し、学生の職業観の醸成および主体的な進路選択能力の育成を目的として学部間共通総合講座に駿河台キャンパスで「キャリア講座Ⅰ」、和泉キャンパスで「キャリア講座Ⅱ」、生田キャンパスで「キャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ」、中野キャンパスで「業界理解ワークショップ型キャリア支援講座」「産学連携型キャリア講座」の科目を開講するなど、キャリア・デザイン関連講座（学部間共通総合講座）の企画・運営を行っている。</p> <p>2015年度は「業界理解ワークショップ型キャリア支援講座」など関連科目を上記の6講座を開講し、その履修者数は、4地区合計で1002名（2014年度は約900名）を数えた。これらのキャリア形成科目は、学部の枠を超えて履修が可能であり、就職キャリア支援センター等が授業計画、成績評価を行っている。</p> <p>また、学部2年生向けに、充実した学生生活を送り、就職活動をする基礎にもなるよう、キャリア手帳を配布した。</p> | | | | | |
| | <p>インターンシップについては、就職キャリアセンターで3つの基本理念を定めている。第1に就業体験を通じた学習目的の明確化と学習意欲の喚起、第2に高い就業意識を持った職業人や創造的人材の育成、第3に産業界や地域社会との交流と相互理解である。この基本理念の下、本学では「全学版インターンシップ」、「学部実施型インターンシップ」、「自己開拓型インターンシップ」の3つの制度で実施している。</p> <p>「全学版インターンシップ」は、所属する学部・学科関係なく参加でき、センターにて受入企業・団体の開拓、学生のマッチング等を行っている。インターンシップを希望する学生の増加に応えるべく、受け入れ企業・団体の開拓、事前・事後教育の強化、マッチング率の向上、受入企業・団体との連携強化等の学生派遣体制の強化を図った。マッチング会の初開催等の諸施策により2015年度は応募者1,505名に対して、受入企業・団体数284、派遣者723名となった。今後もインターンシップ希望者の増加が見込まれることから計画的な実習の実施が必要になっている。「学部実施型インターンシップ」は、商学部、政治経済学部、文学部、理工学部、農学部、経営学部、情報コミュニケーション学部、国際日本学部において、インターンシップ（実習）を学則別表1に記載し、卒業に必要な単位として認定を行っている。</p> | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | 現状の説明 | 評価 | | 発展計画 | | |
|--|---|-------------------------|----------------------|------------------------------------|-------------------------|----------------------|
| | C列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 | |
| | | | | | (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 | (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| ＜外国人留学生や大学院学生への支援＞ | <p>＜外国人留学生や大学院学生への支援＞</p> <p>2015年5月1日現在で、学部生704人・大学院生約342人の留学生が在籍している。今後ますます留学生の増加が見込まれることから、「出口」である就職支援が不可欠となる。本学の就職支援は学外からも高い評価を受けているが、留学生に対しては一般学生と同じ就職活動支援だけでなく、留学生に特化したプログラムを展開していく。2015年度に実施した就職支援行事は以下のとおりである。</p> <p>①プレ就職・進路ガイダンス、②就職・進路ガイダンス、③エントリーシート対策講座、④筆記試験対策講座、⑤就職活動体験報告会、⑥学内OB・OG懇談会、⑦BJTビジネス日本語能力テスト(受験料全額補助)、⑧ビジネス日本語講座、⑨就職活動直前対策セミナー、⑩イングリッシュトラック学生向けガイダンス、⑪Job Hunting Guide(留学生のための就職支援冊子)作成</p> <p>日本企業に就職を希望する留学生と留学生を採用する企業の増加に対応した支援行事を充実し、留学生の就職機会に繋げている。</p> | | | | | |
| | <p>特に、大学院学生(博士前期課程)・専門職大学院修了生に対する支援強化として、次の行事を開催した。①研究科就職ガイダンス(商学研究科, 先端数理科学研究科), ②研究科別個別相談会[グループ相談会](法務研究科), ③法科大学院修了生向け就職ガイダンス, グループワーク講座, ④会計専門職研究科就職キャリアガイダンスまた、理系では学部・大学院の分け隔てなく就職活動支援が行われている。なお、上記の他、企業開拓・来訪企業への院生採用の依頼と情報提供等も実施し、採用拡大につなげている。</p> | | | | | |
| ＜卒業後の進路先データの把握, 就職統計データの整備とデータによる検証システム＞ | <p>＜卒業後の進路先データの把握, 就職統計データの整備とデータによる検証システム＞</p> <p>2015年度の学部卒業生の進路先データ把握率は、98.7%(前年度98.5%)であった。進路先の把握については、ガイダンスやOh-o! Meijiシステムを通じて進路登録WEBサイト入力を依頼し、また学位記受領書の進路報告欄から把握している。その他、文系学部に対しては10月にゼミナールごとの進路状況調査、各学部卒業ガイダンス時における進路状況調査等を行った。理系学部に対しては、春学期に研究室ごとに進路状況調査を行った。内定状況調査の結果は、他大学やマスコミ等の情報などと比較・検討され、その後の就職支援行事の実施時期や内容に活用した。就職統計データについては、毎年、学生の進路及び企業の求人状況等をまとめた統計資料として「就職概況」を発行し、その中で当該年度の進路状況等の分析を行っている。学内では、他の情報などと総合的に判断し、次年度の支援活動の企画にも役立てている。学外には、ホームページに学部、研究科ごとの業種別就職状況や主な就職先などを掲載し、一般に広く公開している。その他、毎年全都道府県で開催する「明治大学地区父母会」にて「就職概況」を配布し、地方在住の父母に対して就職状況について説明している。本学への進学を希望する学生にも「2016年度入試データブック」で公表している。その他の統計データとして、文系学部では、例年6月に在学生5%を抽出し内定状況調査を行っている。</p> | | | | | |

2015年度 就職キャリア支援センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

| 点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 | | 現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください | 評価 | | 発展計画 | |
|--|---|---|-------------------------|----------------------|------------------------------------|--|
| | | | 効果が上がっている点 F列の現状から記述 | 改善を要する点 F列の現状から記述 | 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 | 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述 |
| (1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか | | | | | | |
| a | ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】 | 評価に関する委員会は、就職キャリア支援センター運営委員会（センター長、副センター長他運営委員会メンバー 合計26名）が、就職キャリア支援センター自己点検・評価委員会を兼務している。2015年度は5回開催した。 | | | | |
| (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか | | | | | | |
| a | ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】 | 就職キャリアセンターに関する自己点検・評価報告書については就職キャリア支援センター運営委員会で検討し（2015年度は7月14日）、インターンシップ制度の充実や留学生支援の強化等の課題について、次年度の年度計画書に反映させている。自己点検・評価の項目と、年度計画書の項目が統一されているため、点検・評価した結果を、翌年の計画に反映できる仕組みとなっている。 | | | | |
| (3) 内部質保証システムを適切に機能させているか | | | | | | |
| a | ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 ＜参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する＞ ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映など | 本センターの活動については、教務部委員会にて随時報告している。また、センター運営委員会として、全学部及び大学院から委員が選出されているため、本センターの活動を全学的に周知できる体制にある。 本センター目的等は、大学のホームページを始めとし、大学案内などの刊行物によって周知している。 ①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 従来から、就職キャリア支援センターとして、和泉、生田、中野キャンパスを含めて、2週間に一度、嘱託職員、派遣職員、特別嘱託職員を含めた事務連絡会を行い、情報の共有を図っており、支援活動の強化につなげている。 また個人レベルでは大学職業指導研究会や全国私立大学就職指導研究会への参加を始め、各人が第二種研修制度を活用したり、外部での講演会や情報交換の場に業務として参加している。 さらには、通常時には担当業務に関わる見直し、改善を行い、正確かつ簡潔、迅速に業務処理が行われるよう常にブラッシュアップしている。 各自には「じこてん」ニュースレターを配布し、点検・評価のスキルアップに努めている。 ②教育研究活動のデータ・ベース化の推進 毎年、「就職キャリア支援センター報告書」を発行し、前年度におけるさまざまな就職活動の内容と結果を公表している。また、同時に「就職概況」を発行し、前年度の就職状況を学内外に公表している。就職キャリア支援部内には過去10年以上の「就職概況」が閲覧可能となっている。 ③学外者の意見の反映 センター独自の、自己点検・評価に対する学外者による検証システムはないが、全学的な委員会である評価委員会から、学外者からの意見を受けることとなっている。 ④文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項の対応 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会に対応することとなっている。 | | | | |